



住みたくなるまち

# 南区

# 自治協議会だより

平成27年3月1日発行 第2号

区自治協議会は、区民の皆さんと行政との「協働の要」となるよう、区民の身近なまちづくりや地域課題の解決のため、多様な意見の調整や取りまとめを行っています。活動内容などについて、区民の皆さんに随時お知らせします。

## 南区自治協議会を振り返る

南区自治協議会長 坪川 藤夫

**今** 年度末で、私が携わった4年間の任期が満了します。協働のまちづくりを進めるための自治協議会の主要な任務は、区民に密着する地域課題の解決に対処することです。地域課題として、南区の公共交通基盤の脆弱性と少子高齢化の二つを取り上げ、部会を立ち上げ専門的に検討してきました。その結果、区バスの効率的な運用、乗合タクシーの導入が実現しました。また、著名な方々を招き、講演会を開くなど二つの課題を考えるきっかけづくりを行いました。

11月を家族ふれあい月間として集中的に家族間の絆を考え、少子化問題に前向きに向かおうという空気も醸成されてきました。今年度から、この二つの地域課題に加えて区のみちづくりに関する部会を新設して検討を重ねてきました。

具体的な課題解決の取組みとして区自治協議会提案事業が特筆されます。自ら企画・提案・実施するこの事業の性格が考慮され、予算枠も拡大してきました。地域の特性を生かしながらイベントを企画し、地区の課題に対しては、地区住民の参画のもとで解決に向けて実行するという活動が定着しつつあります。

「協働」は地方自治の分野で、まちづくりの取組みに不可欠なものとして唱えられている概念のひとつですが、協働して行う自治活動には、行政主導である場合や住民主導である場合もあります。今後、住民主導のみちづくりが一層求められると思われませんが、地域特性や人的資源あるいは住民の負担などを充分考慮して地域づくりを進める必要があります。

## 南区自治協議会研修会

～地域包括ケアシステムについて～

講師 支えあいのしくみづくりアドバイザー 河田瑠子氏

第2部会 桜沢 義栄

介護保険の制度改正により、要支援と認定された方々の訪問介護・通所介護サービスは、市町村事業となり、平成29年度までには多様な主体による多様なサービスを提供する新事業に移行します。多様な主体には、既存の事業所に加え、コミュニティやボランティアも含まれることから、今まで以上にコミュニティ協議会等の地域の力が求められます。

そこで、1月17日に南区自治協議会研修会を開催し、社会福祉協議会や保健会などの関係団体にも参加を呼び掛け、約50名の皆さんとこの課題について認識の共有を図りました。

河田瑠子さんは、実体験をもとに「介護しつつ自分の人生や介護される人の生活も大切にしたい」と「助け助けられる互助の大切さ」を地域に育み、「お互い様の関係」の重要性と日々支え合うことのできる人と人との関係づくりが大切であると強調されました。

また、新潟市の地域包括ケア推進室長から在宅医療・介護の現状について、「①南区は平成37年度に新潟市8区の中で2番目の高齢化率(34%)となる。②市民意識として、在宅医療を希望する人が64.3%いる。一方、在宅医療を担う人の85.7%が在宅医療に携わることの困難さを訴え、介護の難しさがある」という説明がありました。

今後、地域の高齢者が多様なサービスを選択できるように、「地域でどのような担い手の基盤が作りあげられるか」が最大の課題です。



## 第1部会活動報告

### 区バスのデザインコンテスト御礼

第1部会 海津 悠平



【大賞2作品を両側面に描いたバスを運行します。お楽しみに。】

「区バスのデザインコンテスト」に地域の方々の多くの方よりご理解ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。特にご協力を賜りました、区内小中学校の校長先生始め児童、生徒の皆さん、本当にありがとうございました。当初の予想を遙かに上回る、804点の力作がそろい、ずらりと並んだ作品には圧倒されました。

本事業の目的は、地域の公共交通に関心を持って頂き、親しんで頂く事でした。そしてその先には、区民自らが創っていく公共交通があり、利便性が高く、より豊かなまちの形成に繋げていくきっかけ作りでした。

今回の作品テーマは「私たちの住むまち、南区」でしたが、地域の子どものまちに対する愛着や、将来に対する希望などがあふれていました。この子ども達の気持ちを噛みしめながら、私たち地域の大人達はより豊かなまちづくりのため、一歩ずつ前進していかなければならないものだと思います。



## 南区教育ミーティング

第2部会 小林 誠

12月24日に自治協議会委員と、教育委員をはじめとした各教育担当課との教育ミーティングを開催しました。

まずは、地域と学校パートナーシップ事業の説明があり、それに対して意見交換を行いました。各学校の地域教育コーディネーターの方々には皆さん地域と学校とを結び、連携を図るよう頑張っておられるようです。しかし、事業を行うにあたり協力をお願いする方々がどうしても一定の方に偏ってしまう点があるとの声が聞かれるようです。お父さんもお母さんも地域の一員なので積極的に関わっていただけないかと思えます。多くの方が関わられるようにするには一人一人が口コミでボランティアを募る事が一番良い方法だと思われます。

出席者より、「学・社・民の融合」で事業をしているが、先生が忙し過ぎて時間が取れなくて事業が進まないとの意見もありました。

また、地域の防災訓練で小中学生が一生懸命やってくれて、自分で発見した色々なことを自分の言葉で語っていたことが素晴らしいかったです。

新潟市教育ビジョンには「夢や希望に向かい生き生きと学ぶ」姿とあるので、教育現場の方々には絶対忘れてもらいたくない事と、親、地域の方にももっと子供達に夢を語り聞かせ、考えさせる事が必要であるようです。

その他多くの意見等がありましたが、地域と学校と一緒に子供達を育てて行かなければいけないことを再確認しました。

